

令和5年11月11日

まちづくり大学

「大阪狭山市 災害ボランティアネット」 について

社会福祉法人
大阪狭山市社会福祉協議会
津田和宏

大阪狭山市災害ボランティアネットとは

“災害”というキーワードを基に、希薄化している地域コミュニティを再生し、日頃からのご近所ネットワークを構築するため、また、災害ボランティアセンターが円滑に運営できるよう地域に根ざした活動を進めている関係機関・団体が集まり「災害のボランティアネット」を立ち上げました。

（構成団体）

自主防災組織連絡協議会、自治会地区会連合会、まちづくり円卓会議、民生委員・児童委員協議会、ボランティアグループ連絡会、地区福祉委員会委員長連絡会、大阪いずみ市民生活協同組合、商工会、医師会、婦人会、市民活動支援センター、社会福祉施設連絡会、大阪狭山市役所、大阪狭山市社会福祉協議会

○大阪狭山市災害ボランティアネットの活動

◆定例会・研修会

情報交換や事業検討を通して各団体の相互理解を深め、顔の見える関係づくりを目指します。



◆災害ボランティアセンター設置運営訓練

災害ボランティアセンターの運営に関することや、被災し困りごとを抱えた方とボランティア調整について模擬訓練を実施しています。



◆災害ボランティア養成講座

被災者に寄り添い、さまざまなニーズに沿った支援ができるよう、災害ボランティアの養成講座を行っています。



◆啓発・PR事業

少しでも多くの市民のみなさまに「防災」「減災」「助け合い」などについて考える機会を設けるために、講演会などを実施しています。



災害ボランティアセンターとは

災害ボランティアセンターの活動目的は、被災者・被災地を主体としながらボランティアの協力を得て、地域の復興につなげていくことです



災害ボランティアセンターは、協働の場として様々な企画・計画を実施していく際の中核的な存在としての役割を期待されています

なぜ社協が担うのか…

- 日ごろから地域福祉の推進役として、地域住民・各種団体とともに連携している
- 行政機関と十分に連携している
- 全国の社協ネットワークをもっており、人的、物資的支援を活用できる

災害ボランティア活動とは

- 台風による風水害や地震災害時に、被災者の支援にあたる活動を“災害ボランティア活動”と言います
- すべての活動は“被災者支援”が基本です
- 阪神淡路大震災での活動が“ボランティア元年”と呼ばれ、最近では社会的にも大きな力を発揮し、被災者支援活動の大きな役割の一つとなっています



災害ボランティアセンターのながれ

(岡山市北区災害ボランティアセンター)

岡山市北区災害ボランティアセンターの 運営支援

(平成30年7月11日～7月16日)



《資機材・車両の貸出
支援》



《災害ボランティアセンター
運営支援》

※岡山市災害VCは7月11日に開設。ボランティア受付や
活動を開始

【センターの運営スタッフについて】



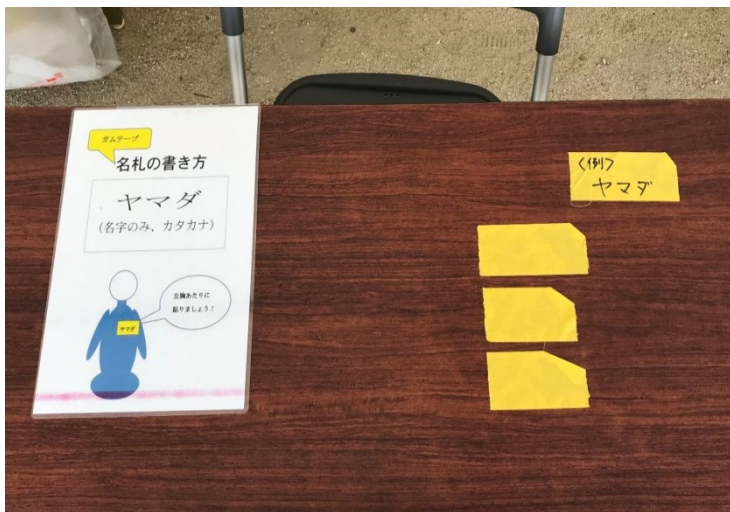
地元社協、市役所、NPOセンター、ふれあい公社、
他市町村の社協、地区社協(福祉委員)、災害ボランティア
登録者、赤十字ボランティア 等
《開設初日7月11日時点》

【受付】



- ・午前9時よりボランティアの受付開始。
- ・活動を希望するボランティアは、まず受付でボランティア登録やボランティア活動保険等の手続きをします。

【受付②】



- ・名札の作成
- ・初めはガムテープに名前を書いて胸に貼って対応。
- ・岡山県社協でシール式ワッペンを作成し、県内の災害VCの名札を統一。

【オリエンテーション】



★活動にあたっての注意事項を説明

- ・ボランティア活動の心構え
- ・体調管理
- ・プライバシーのこと
- ・活動中のトラブルや判断に迷った際の連絡

【ニーズ受付】



★被災された方からの困りごと(ボランティア依頼)の聞き取りを行う。

どのようなことで困っていて、具体的に何をしてほしいのか、いつ来てほしいか、どんな道具が必要か、ボランティア何人くらいで活動できるか、車を駐車するスペースはあるか、トイレは使えるか、水は使用可能か、集積所の場所等。

【マッチング（活動調整）】



★ニーズ受付班からあがってきた依頼に基づいてボランティアを調整。

- ・活動内容の紹介、挙手式で調整
- ・自動車の相乗り
- ・軽トラックの運転
- ・ボランティアをグループニングリーダーを決める

等

【資材・車両班】



★活動に必要な資機材や車両の貸出
スコップ、一輪車、ぞうきん、バケツ、ほうき、軍手、
ゴム手袋、飲み物、塩飴等

【現地に移動し活動①】



初期のニーズ(依頼)としては、浸水した家具や畳の運び出し、土砂の撤去、清掃等が大半であった。しかし、実は他の困りごともたくさんあった。

【現地に移動し活動②】



被災された地区の周辺の公園や、お寺、公的機関が一時的なゴミの集積所となっていた。

【活動報告】



★活動の進捗状況をセンターに報告

- 依頼内容が「完了」or「継続」
- 依頼者の様子
- 周辺地域の様子
- ボランティアさん達の体調等

【立ち上げ初日から起きたトラブル】

★ 資材、文具等の不足

ボールペン、クリアファイル、ホワイトボード、コピー機、付箋.....

★ センタースタッフ内の情報共有の不足

取り決め事、変更点、必要な情報が共有されない.....

★ 活動に来てくれたボランティアさんへの対応不足

どのような状況なのか説明が無い。ただただ長い待機時間.....

★ 熱中症で病院へ運ばれたボランティアさんへの対応について

活動先のリーダーから連絡が。しかし救護班は設置なく...

【日々ミーティングを重ねてセンターをバージョンアップ】

★日々積み上がってゆく課題
に対して、改善策の検討や情報共有を行う。



リーダーと
センター長
に情報を集
約しよう。

マッチング
ブースのレ
イアウトを変
えてみよう！

活動のタイ
ムキパーを
決めよう！

軽トラに乗っ
てきた人が
一目でわか
るように！

車両の出
動状況を管
理しづら
い！

移動時間
のかかる遠
くの現場か
ら調整でき
ないか？

センターの
周知が足り
ないのかも？

待っている
ボランティア
さんに声か
けをしよう！

さいごに

みなさまに知ってほしいこと

- 災害には1つ1つ「顔」がある
- 災害ボランティアセンターの理解
- 日ごろから“受援力”を高める
- 街の復旧・復興に貢献する